

芥川賞 直木賞 ゼロ県

徳島 背景と展望

〈5〉

「徳島出身で徳島にいながら芥川賞を受賞する作家を輩出する」。徳島文学協会の佐々木義登会長（四国大学文学部教授）がマイクを持つ手に力を入れた。今年2月、小松島市立図書館で開いたトークイベント「ブンガクダンギ」。

「徳島作家」や「四国文学」弟子とも言える会員3人と一緒に、芥川、直木両賞の候補を、10年近くになる協会の活動で来場者やオンライン参加者に紹介し、最後にそう宣言した。



徳島文学協会の小説講座で講義する佐々木義登会長＝徳島市の県立文学書道館

育成上

取り戻すことだ。「もう一度、徳島から優れた文学を全国に発信する時代をつくりたい」と佐々木さんは意気込む。しかし近年は、書き手が個々に作品を執筆して文学賞に応募し、新たな才能として発掘されるケースが多い。例えば5大文学新人賞の一つ「文芸賞」を2024年に受賞した徳島県南出身の待川魁さん

佐々木会長の指導奏功

年）、阿部あみさんの林美美子文学賞佳作（19年）と同人雑誌優秀作（25年）、菊野啓さんの幻冬舎純文学小説コンテスト大賞（19年）と銀華文学賞（23年）、尾野森生さんの北日本文学賞（26年）など。また、佐々木さんから四国大文学部で指導を受けていた石澤遥さんが在学中、とくしま文学賞小説部門最優秀賞（22年）、織田作之助青春賞（23年）、三田文学新人賞佳作（24年）と立て続けに受賞した。阿部あみさんの林美美子文学賞佳作（19年）と同人雑誌優秀作（25年）、菊野啓さんの幻冬舎純文学小説コンテスト大賞（19年）と銀華文学賞（23年）、尾野森生さんの北日本文学賞（26年）など。また、佐々木さんから四国大文学部で指導を受けていた石澤遥さんが在学中、とくしま文学賞小説部門最優秀賞（22年）、織田作之助青春賞（23年）、三田文学新人賞佳作（24年）と立て続けに受賞した。



北日本文学賞を受賞し、北日本新聞に掲載された尾野森生さんの小説

講座には、オンライン参加を含めて会員15人が集まった。10年前に亡くなった夫の人生をつづった会員の作品が題材となり、佐々木さんは「夫の一手一投足について解像度を上げて描写し、内面を深掘りして人間性に迫ると人物像が立ち上がり、読み応えのある評伝になる」と助言した。佐々木さん自身も、5大文学新人賞に次ぐ難関の三田文学新人賞の受賞者だ。芥川賞作家を複数輩出した小説教室で名をはせる根本昌夫さんから指導を受けたこともある。受賞歴のある会員の一人は「佐々木先生は根本さんから伝授されたことを私たちに教えてくれたし、作品の添削指導も的確だ。小説講座での先生の評は、本当に勉強になる」と話す。

「書き手が自分の書ける範囲にとどまり、独自のスタイルで何かしようとしても難しい」と、指導の必要性を強調する佐々木さん。徳島の文学史に残る偉業達成に向け、情熱を傾けている。（久保高茂）